



論点整理

第二章 質の高い、深い学びを実現し、
分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方 ⑧

「主体的・対話的で深い学び」と「個別最適な学びと協働的な学び」の整理

- ◆ 「対話的な学び」と「協働的な学び」、
「個に応じた」と「個別最適」など、
類似した用語が並立することによる
混乱が生じないように適切に整理すべき

- ◆ 特に個別最適な学びについては、
多様な子供たち一人一人に、「主体的・
対話的で深い学び」による資質・能力
の育成を図る旨を明確化しつつ、既に
総則に記載がある「個に応じた指導」
を発展的に置き換える形で整理すべき



- ◆ その際、デジタル学習基盤の役割も踏まえつつ、教師主語の視点（※1）のみに留
まらず、学習者主語の視点（※2）も含めた二つの視点をバランスよく踏まえた記載
とすべき

（※1）教師が子供たち一人一人に応じて指導方法・指導体制を工夫していくという視点

（※2）子供自らが自己の学習を主体的に調整することを促すことにより、資質・能力の育成
に資するとともに、一人一人の多様性に応じていくという視点

- ◆ 孤立的な学びに陥ったり、集団の中で個が埋没してしまうことのいずれも避けなが
ら、全ての子供の資質・能力の育成につながるよう、一斉・グループ・個別といった
様々な形態を効果的に組み合わせて教育活動を組み立てていくことの重要性、対話的
な学び・協働的な学びの前提としての集団作りや心理的安全性の確保の重要性なども
示すべき

心に余裕をもつ

みち ころぎ とく よ じん よ げい あそ
道に 志 し、徳に 拠 り、仁に 拠 り、芸に 遊 ぶ。

（訳）人は正しい道を求め続け、それによって得た徳という高い品格を拠り所とし、また仁と
いう人間愛を拠り所とし、その上で豊かな教養の世界を気ままに楽しむ。これこそが
まさしく君子の姿なのだ。

出典：「壁を乗り越える論語塾」安岡定子著（PHP研究所）